

点検橋梁総括表

No.	橋梁番号 (分割番号)	橋梁ID	橋梁名	橋梁名 フリガナ	路線名	径間数	上部形式1	上部形式2	橋長 (m)	全幅員 (m)	有効幅 員 (m)	架設 年度	供用年	点検年	健全性判定区分							
															主桁	横桁	床版	下部 構造	支承部	その他	判定 区分	所見等
1	0001	43.92772, 141.66473	千望台通り1号橋	ヒホウ トリイ ナシ	千望台通り	1	RC橋	RC溝橋（BOXカル パート）	4.00	4.00	4.00	1982	38	2020	I	-	-	I	-	II	I	構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。
														2017	I	-	-	I	-	II	I	構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。
2	0009	43.91800, 141.62776	セタバツ橋	セバ ツ	礼受高台通り	1	鋼溶接橋	I 桁（不明）	25.00	6.50	5.50	1979	41	2020	III	II	II	III	III	III	III	防食対策として主桁の補強と上部工・支承部の塗装塗り替え、安全対策として洗掘防止対策を早期に実施すること。
														2016	II	II	II	I	II	II	II	防食対策として、上部工・支承部塗装塗替えを実施することが望ましい。
3	0010	43.91951, 141.62805	礼受高台通り1号橋	レウカダ トリイ ナシ	礼受高台通り	1	PC橋	PC 床版橋その他	4.70	4.50	4.00	1982	38	2020	III	-	I	I	I	II	III	機能回復対策として、上部工の断面修復を早期に実施すること。
														2017	II	-	I	II	I	II	II	機能回復対策として上部工・下部工ひび割れ補修を実施することが望ましい。
4	0015	43.85116, 141.81050	川沿9号橋	カガ イロ ナシ	川沿9号通り	1	PC橋	PC 床版橋その他	19.00	5.00	4.00	1981	39	2020	II	-	II	I	I	II	II	機能回復対策として上部工ひび割れ補修、漏水対策として橋面防水を実施する事が望ましい。
														2016	II	-	II	II	I	II	II	機能回復対策として、上部工ひび割れ補修、下部工断面修復を実施することが望ましい。
5	0016	43.93887, 141.66326	大通橋	オド ムバツ	五十嵐通り	2	鋼溶接橋	I 桁（不明）	78.88	8.40	7.50	1977	43	2020	II	II	II	II	II	II	II	機能回復対策として下部工断面修復を早期に実施する事が望ましい。防食対策として上部工・支承部の塗装塗替を実施する事が望ましい。
														2016	II	II	II	II	II	III	II	防食対策として、上部工・支承部塗装塗替えを実施することが望ましい。
6	0018	43.92185, 141.66445	アイトシナイ線1号橋	イトシナイ ナシ	アイトシナイ線	1	RC橋	RC溝橋（BOXカル パート）	2.50	9.50	8.50	1992	28	2020	I	-	-	I	-	II	I	構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。
														2017	I	-	-	I	-	II	I	構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。
7	0019	43.91835, 141.69997	ユードロ橋	ユードロ	ユードロ線	2	鋼溶接橋	I 桁（不明）	66.90	8.90	8.00	1984	36	2020	II	II	II	II	II	II	II	防食対策として上部工・支承部の塗装塗替を実施する事が望ましい。漏水対策として橋面防水・橋台背面の止水処理を実施する事が望ましい。
														2017	II	II	II	I	II	II	II	防食対策として上部工・支承部塗装塗替えを実施することが望ましい。漏水対策として橋面防水を実施することが望ましい。
8	0026	43.87306, 141.73616	桜橋	サクラ	桜庭の沢通り	2	鋼溶接橋	I 桁（不明）	47.30	4.80	4.00	1966	54	2020	II	II	II	II	II	II	II	防食対策として上部工・支承部の塗装塗り替え、機能回復対策として、上部工・下部工断面修復、支承補修を実施する事が望ましい。
														2016	II	II	II	II	II	II	II	機能回復対策として、上部工ひび割れ補修、下部工断面修復を実施することが望ましい。
9	0067	43.94395, 141.63263	潮橋	ウシ	西海岸線	1	PC橋	ブレテン中空床版	16.90	15.30	14.50	1991	29	2020	I	-	I	III	I	II	III	機能回復対策として、鉄筋の差し替えと下部工断面修復を早期に実施すること。
														2016	I	-	I	II	I	II	II	機能回復対策として、下部工の断面修復を実施することが望ましい。
10	0075	43.92905, 141.68246	緑橋	ミドリ	パンゴベ線	1	PC橋	ポステン中空床版	31.00	4.70	3.50	1996	24	2020	I	-	I	I	I	II	I	構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。
														2017	I	-	I	I	I	II	I	構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 55′ 39.82″ 141° 39′ 53.04″	橋梁ID
千望台通り1号橋 (フリガナ)センボウダイトオリイチゴウハシ	千望台通り	北海道留萌市緑ヶ丘町2丁目				43.92772,141.66473
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道留萌市	2020.08.29	アイトシナイ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

シーイー・日本データー・小杉 JV 野田 益男

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅰ					
横桁						
床版						
下部構造	Ⅰ					
支承部						
その他	Ⅱ	変形・欠損	写真006,高欄・防護柵01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1982 年	4 m	4 m
橋梁形式		
RC溝橋(BOXカルバート)、その他(橋台)2基		

起点




終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造・主桁( )【判定区分: Ⅰ】	下部構造( )【判定区分: Ⅰ】
写真6 その他( 高欄・防護柵01 )【判定区分: Ⅱ】	—【判定区分: 】
	

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 55' 10.26" 141° 37' 41"	橋梁ID
礼受高台通り1号橋 (フリガナ)レウケタカダイオリイチゴウハン	礼受高台通り	北海道留萌市浜中町35番地の2				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道留萌市	2020.08.17	モタセツ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

シーイー・日本データー・小杉JV 野田 益男

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造						
主桁	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	写真001,主桁01			
横桁						
床版	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	写真006,地覆02			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	機能回復対策として、上部工の断面修復を早期に実施すること。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1982 年	4.7 m	4 m
橋梁形式	PC 床版橋その他、逆T式橋台2基	

起点



終点


※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。



状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。


○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

写真1 上部構造・主桁( 主桁01 )【判定区分: Ⅲ】		上部構造・床版( )【判定区分: Ⅰ】	
			
下部構造( )【判定区分: Ⅰ】		支承部( )【判定区分: Ⅰ】	

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

写真6 その他( 地覆02 )【判定区分: Ⅱ】		—【判定区分: 】	
			
—【判定区分: 】		—【判定区分: 】	

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	43° 55' 18.68" 141° 39' 52.05"	橋梁ID
アイトシナイ線1号橋 (フリガナ)アイトシナイチコウハン	アイトシナイ線	北海道留萌市緑ヶ丘2丁目208-2番地				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
北海道留萌市	2020.08.17	アイトシナイ川	無	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

シーイー・日本データー・小杉 JV 野田 益男

定期点検時に記録

応急措置後に記録

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ					
下部構造	Ⅰ					
支承部						
その他	Ⅱ	路面の凹凸	写真006,舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1992 年	2.5 m	8.5 m
橋梁形式		
RC溝橋(BOXカルバート)、その他(橋台)2基		

起点




終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造・主桁( )【判定区分: Ⅰ】	下部構造( )【判定区分: Ⅰ】
写真6 その他( 舗装01 )【判定区分: Ⅱ】	—【判定区分: 】
	



# 【点検結果概要】

フリガナ センボウダイオリイチゴウハシ  
橋梁名: 千望台通り1号橋

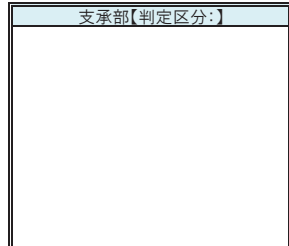
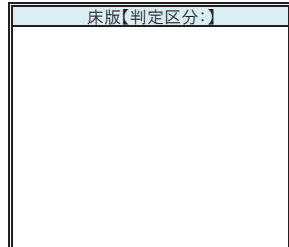
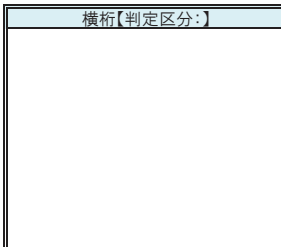
フリガナ センボウダイオリ  
路線名: 千望台通り

上部工形式: RC溝橋(BOXカルバート)

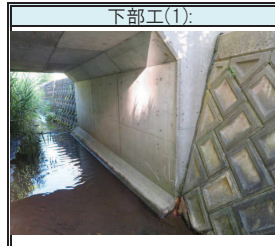
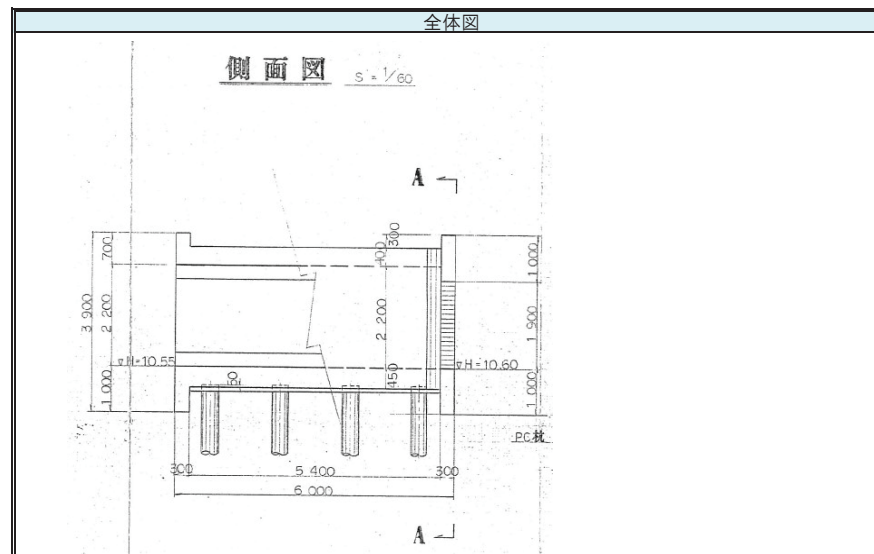
径間数: 1 留萌市

診断結果			過年度診断結果		
部材名	判定	変状の種類	判定	変状の種類	
主桁	I		I		
横桁					
床版					
下部構造	I		I		
支承部					
その他	II	変形・欠損	II	腐食	

I:健全、II:予防保全、III:早期措置、IV:緊急措置



橋梁番号	0001	路下条件		アイトシナイ川		橋梁 診断 結果	健全性診断	I	健全		
架設年	1982年	点検年		2020年(経過年数:38)			構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。				
橋長	4.00m	有効幅員		4.00m							
今回点検の評価						診断所見					
部位／部材		径間	材質	損傷種類	損傷状況概要	損傷区分	前回点検との比較		原因	健全性	補修方法など
上部工	主桁	1	RC	うき・剥離・鉄筋露出	20×50の鉄筋露出が確認される	c	損傷範囲は前回同様で、進行性は低い		かぶり不足による損傷と推定される	I	損傷が軽度であるため経過観察とする
	主構トラス										
	アーチリブ・補剛桁										
	横桁										
	床版										
	副部材										
下部構造		1	RC		損傷なし	a				I	
支承部											
その他	伸縮装置										
	高欄・防護柵	1	鋼製	変形・欠損	起点し側に変形・欠損が確認される	b	損傷範囲は前回同様で、進行性は低い		外力(車両との接触)による損傷と推定される	Ⅱ	部分交換が考えられる
	地覆										
	排水装置										
	舗装	1	その他		損傷なし	a				I	





# 【点検結果概要】

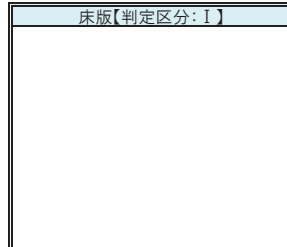
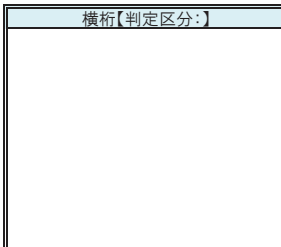
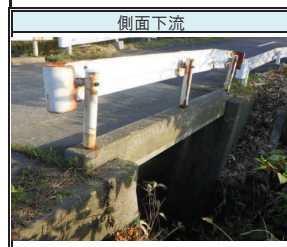
フリガナ レウケタカダイオリチゴウハシ  
橋梁名: 礼受高台通り1号橋

フリガナ レウケタカダイオリ  
路線名: 礼受高台通り

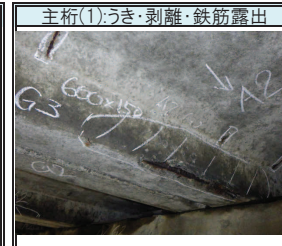
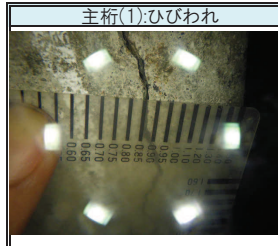
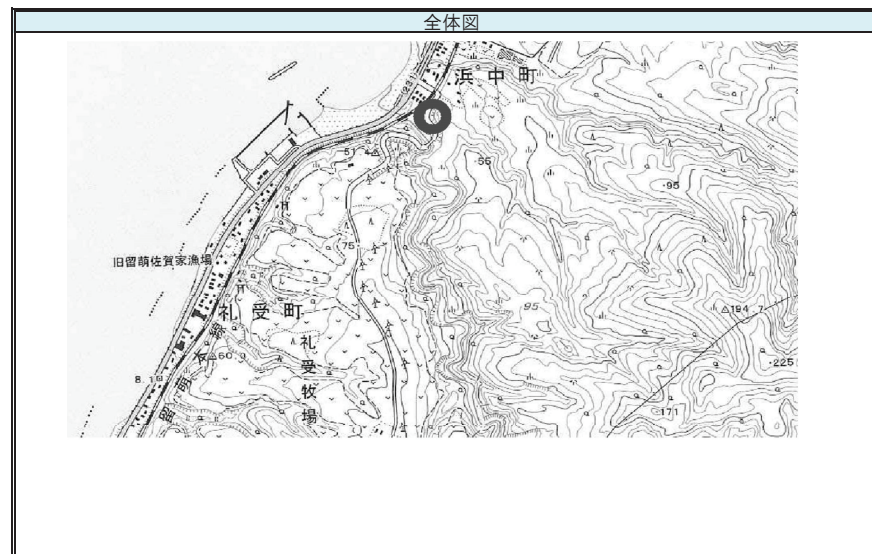
上部工形式: PC 床版橋その他

径間数: 1 留萌市

診断結果			過年度診断結果		
部材名	判定	変状の種類	判定	変状の種類	
主桁	Ⅲ	うき・剥離・鉄筋露出	Ⅱ	ひびわれ	
横桁					
床版	Ⅰ		Ⅰ		
下部構造	Ⅰ		Ⅱ	ひびわれ	
支承部	Ⅰ		Ⅰ		
その他	Ⅱ	うき・剥離・鉄筋露出	Ⅱ	漏水・滞水	
Ⅰ:健全、Ⅱ:予防保全、Ⅲ:早期措置、Ⅳ:緊急措置					



橋梁番号		0010	路下条件		モタセツ川	橋梁 診断 結果	健全性診断		Ⅲ	早期措置段階		
架設年		1982年	点検年		2020年(経過年数:38)		機能回復対策として、上部工の断面修復を早期に実施すること。					
橋長		4.70m	有効幅員		4.00m							
						診断所見						
部位／部材			径間	材質	損傷種類	損傷状況概要	損傷区分	前回点検との比較		原因	健全性	補修方法など
上部工	主桁		1	PC	うき・剥離・鉄筋露出	0.1㎡以上の鉄筋露出が確認される	d	損傷範囲は広がっており、進行性が確認される		ひびわれ、凍害の影響により、ひび割れ、鉄筋露出が生じたものと推定される	Ⅲ	断面修復が考えられる
	主構トラス											
	アーチリブ・補剛桁											
	横桁											
	床版		1	RC		損傷なし	a				I	
副部材												
下部構造		1	RC	ひびわれ	A1橋台に幅0.20mmのひび割れが確認される	b	損傷範囲は前回同様で、進行性は低い		乾燥収縮により生じたひび割れと推定される	I	損傷が軽度であるため経過観察とする	
支承部		1	その他	損傷なし		a				I		
その他	伸縮装置		1	その他	漏水・滞水	A1.A2共に漏水が確認される	d	損傷範囲は前回同様で、進行性は低い		伸縮装置のディテールに起因する。	I	他部材へ与える影響が小さいため、経過観察とする
	高欄・防護柵		1	鋼製	腐食	L側に板厚減少を伴う腐食が確認される	d	損傷範囲は前回同様だが、進行性が確認される		38年補修を施していないため、塗装の経年劣化と推定される	Ⅱ	部分交換が考えられる
	地覆		1	RC	うき・剥離・鉄筋露出	R側に600×200の剥離が確認される	c	損傷範囲は前回同様だが、進行性は若干あり		凍害による損傷と推定される	Ⅱ	断面修復が考えられる
	排水装置											
	舗装		1	コンクリート	舗装の異常	起点側に1200×200のうきが確認される	d	損傷範囲は前回同様で、進行性は低い		経年劣化と凍害による損傷と推定される	Ⅱ	舗装補修が考えられる





# 【点検結果概要】

フリガナ アイシナイセンテコウハン  
橋梁名: アイシナイ線1号橋

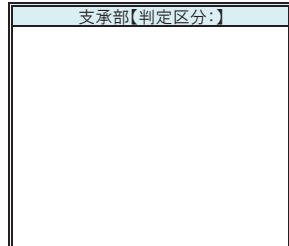
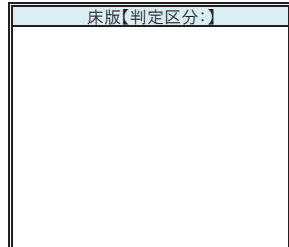
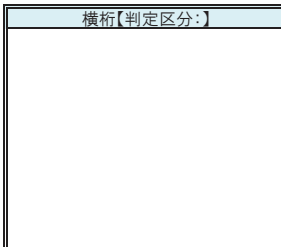
フリガナ アイシナイセン  
路線名: アイシナイ線

上部工形式: RC溝橋(BOXカルバート)

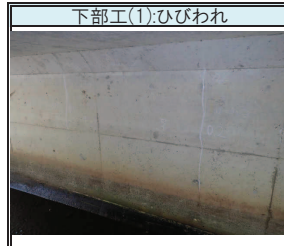
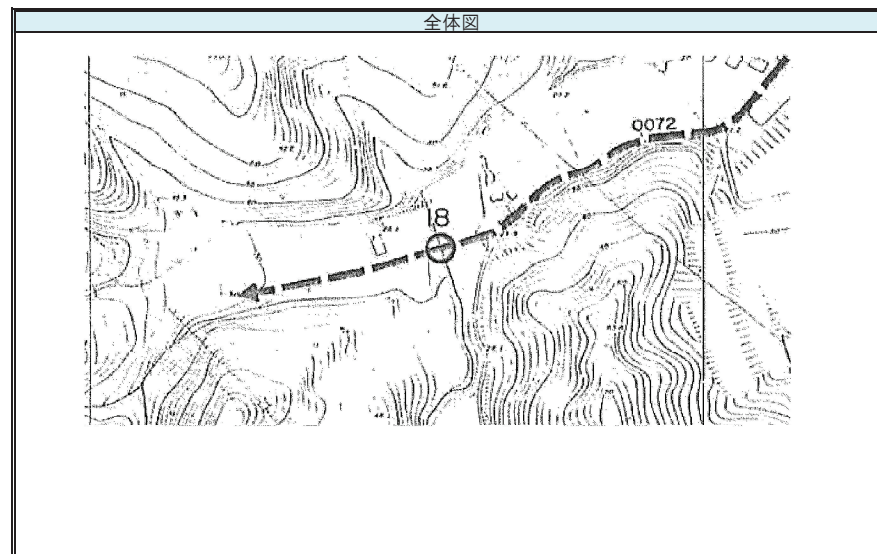
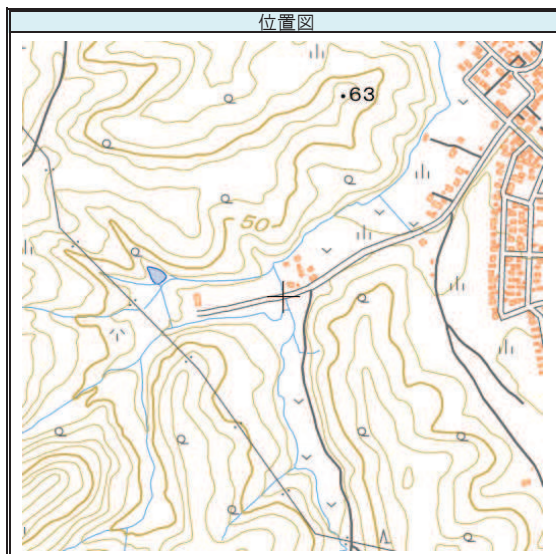
径間数: 1 留萌市

診断結果			過年度診断結果		
部材名	判定	変状の種類	判定	変状の種類	
主桁	I		I		
横桁					
床版					
下部構造	I		I		
支承部					
その他	II	路面の凹凸	II	路面の凹凸	

I:健全、II:予防保全、III:早期措置、IV:緊急措置



橋梁番号			橋梁			健全性診断		
0018	架設年	1992年	点検年	2020年(経過年数:28)	橋長	250m	有効幅員	8.50m
橋梁			橋梁			健全性診断		
						I		
						健全		
						構造物の性能に影響を及ぼす損傷はない。		
						診断結果		
部位/部材			今回点検の評価			診断所見		
部位/部材	径間	材質	損傷種類	損傷状況概要	損傷区分	前回点検との比較	原因	健全性
主桁	1	RC	ひびわれ	主桁に幅0.20mmのひびわれが確認される	C	前回点検で確認されなかったひびわれは、進行性が低いと推定される	乾燥収縮により生じたひびわれと推定される	I
主桁トラス								
アーチリブ・補剛桁								
横桁								
床版								
副部材								
下部構造	1	RC	うき・剥離・鉄筋露出	A1に軽微な剥離(すりへり)が確認される	C	前回点検で確認されなかったすりへりは、進行性が低いと推定される	河川流水による損傷と推定される	I
支承部								
伸縮装置								
高欄・防護柵	1	鋼製	変形・欠損	L側R側共に変形が確認される	b	損傷範囲は前回同様で、進行性は低い	外力(車両との接触)による損傷と推定される	I
地覆	1	RC	うき・剥離・鉄筋露出	L側R側共に0.1m以上の剥離が確認される	c	損傷範囲は前回同様で、進行性は若干あり	凍害による損傷と推定される	II
排水装置								
舗装	1	アスファルト	路面の凹凸	A1,A2側背面に30mm以上の路面の凹凸が確認される	d	損傷範囲は前回同様で、進行性は低い	埋戻し土の転圧不足による損傷と推定される	II



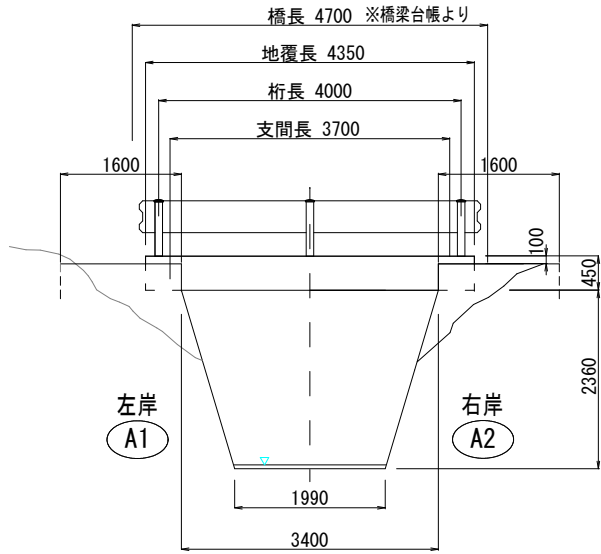
現状一般図

S=1:50

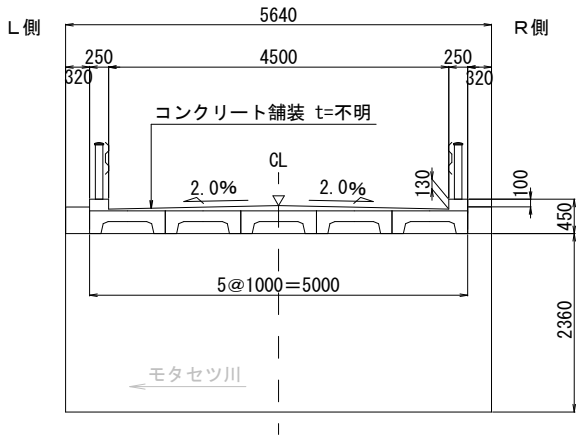
〔礼受高台通り 礼受高台通り 1 号橋〕

HOCTECのBMS  
橋梁管理番号：01212100100

側面図 S=1:50  
固定・可動は不明

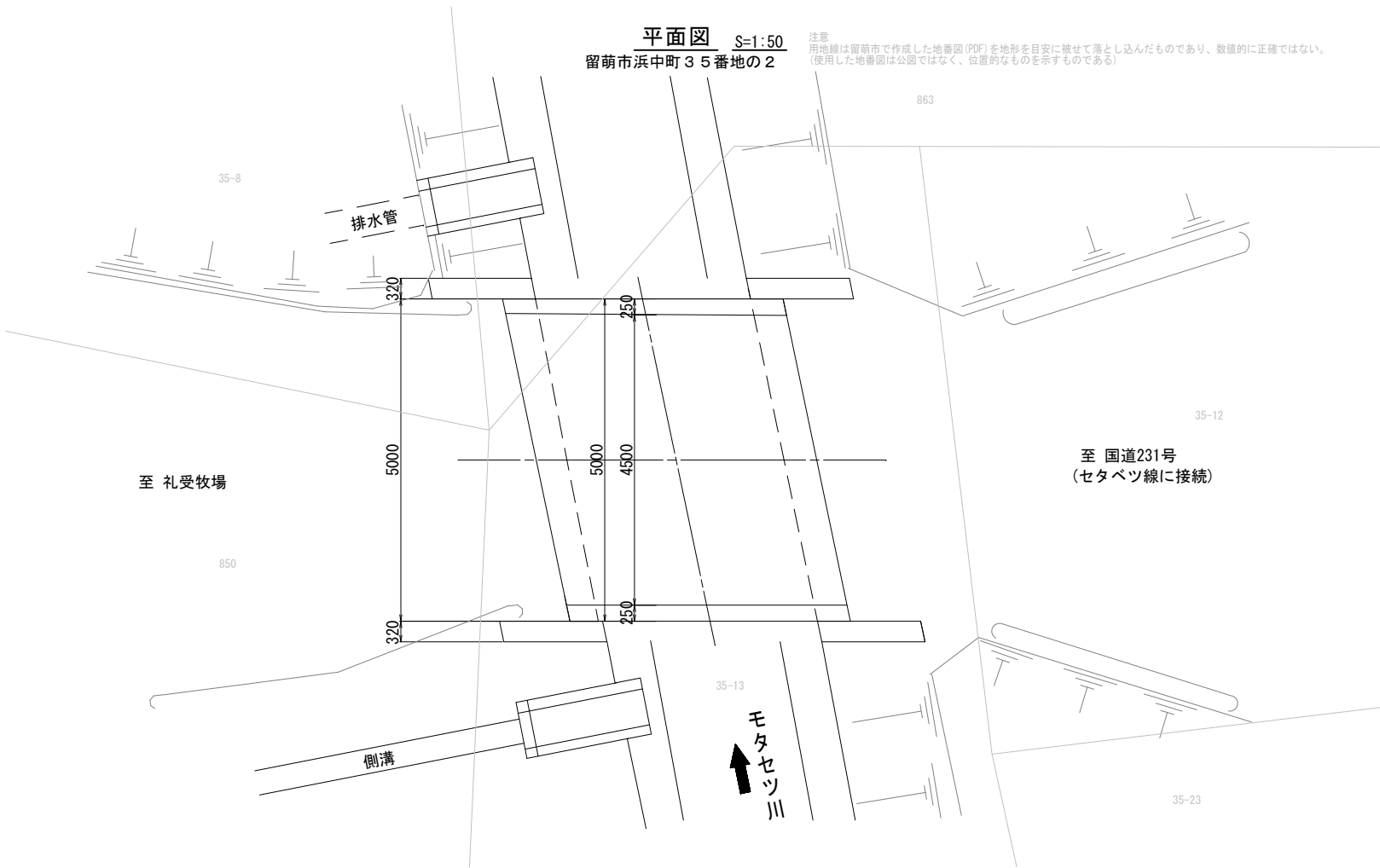


断面図 S=1:50



平面図 S=1:50  
留萌市浜中町 3 5 番地の 2

注意  
用地線は留萌市で作成した地番図 (PDF) を地形を目安に載せて薄とし込んだものであり、数値的に正確ではない。  
(使用した地番図は公図ではなく、位置的なものを示すものである)



礼受高台通り1号橋 設計条件

緯 度 ・ 経 度	北緯43° 55′ 10″、東経141° 37′ 41″
路 線 名	1級市道 礼受高台通り (路線番号：0018)
交 差 河 川 名	普通河川モタセツ川 (留萌市所管)
橋 格	2等橋 (橋の重要度：A種)
活 荷 重	TL-14
道 路 規 格	第3種5級 (管理水準：3 種)
設 計 速 度	不明
上 部 工 形 式	単純PC床版桁 ※橋梁台帳ではRC橋
下 部 工 形 式	A1及びA2-逆 T 式 (基礎形式不明) ※逆 T 式は橋梁点検帳票に記載 (基礎は空欄)
支 承 形 式	不明
橋 長	4.70m ※橋梁台帳より
桁 長	4.00m
支 間	3.70m ※橋梁台帳では4.20m
橋 梁 部 幅 員	有効幅員 = 4.50m ( 総幅 = 5.00m ) ※橋梁台帳では有効幅員4.50mで総幅も4.50m(地覆幅ゼロ)
平 面 線 形	斜橋 斜角=78° : 道路中心と橋台壁前面の交角
縦 断 線 形	不明
横 断 勾 配	2%直線勾配
雪 荷 重	不明
設 計 水 平 震 度	不明
踏 掛 版	設置しない
適 用 示 方 書	S55 道路橋示方書
そ の 他	添架なし・照明なし

礼受高台通り1号橋の履歴 (点検・維持・補修・補強など)

年 度	工事内容	適用基準等	受注者・受託者
昭和57 (1982) 年	改築工事竣工	S55道示	
?			
平成29 (2017) 年9月	橋梁点検	H27.8 北海道市町村橋梁点検マニュアル(案)	シーイー・日本データー・キング・留萌測量JV
令和2 (2020) 年8月	橋梁点検	R1.7 北海道市町村橋梁点検マニュアル(案)	シーイー・日本データー・小杉JV
令和4 (2022) 年10月	補修設計		(株)シビテック

2022年までの供用年数=2022-1982=40年、残存供用年数=60年

【礼受高台通り 1 号橋】

工事名	潮橋外1橋長寿命化補修工事		
図面名	現状一般図		
作成年月日			
縮 尺	図示	図面番号	1
会社名	株式会社 シビテック		
事業者名	留萌市 都市環境部 都市整備課		

図中記載の寸法は、既存図面及び現地計測により測定した値から建設当時の一般図を復元したものであり、施工誤差等によって生じた数値の差異は考慮していない。

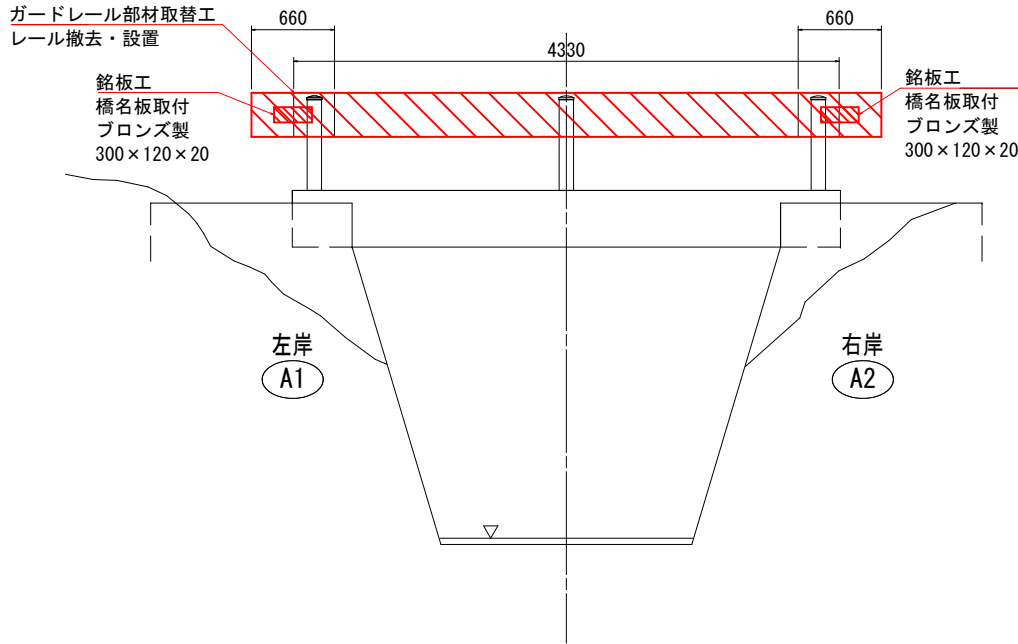


ガードレールビーム取替図

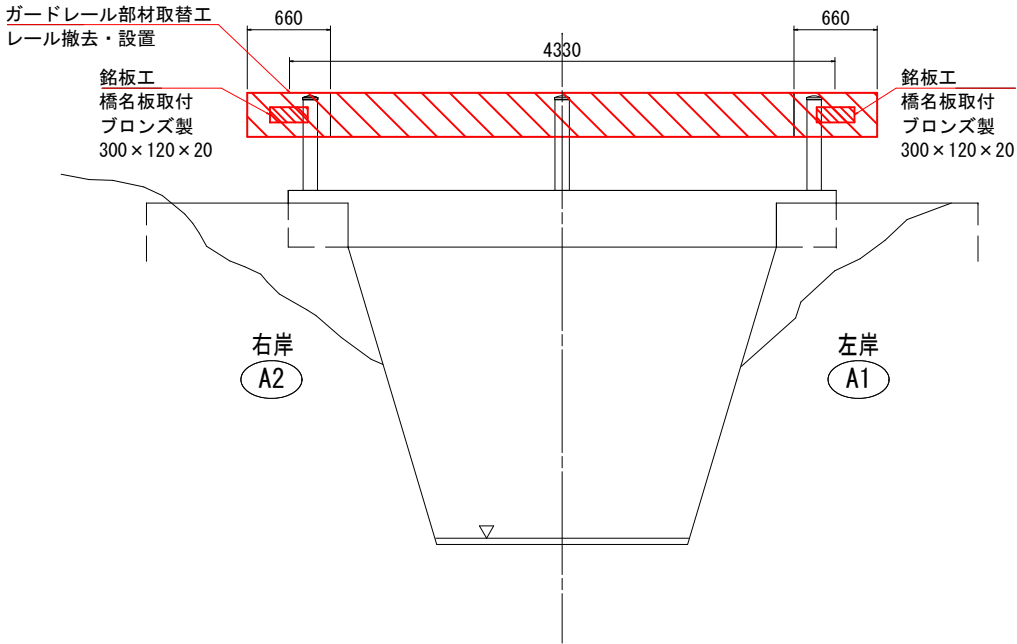
〔礼受高台通り 礼受高台通り 1 号橋〕

S=1:30

上流側面図 S=1:30



下流側面図 S=1:30



防護柵撤去数量表

項 目	規 格 値		数量	備考
ビーム	白色塗装 C種	2. 3 × 350 × 4330	2 (枚)	0. 065t (32. 5kg/ 枚)
袖ビーム	白色塗装 C種	2. 3 × 356 × 660	4 (枚)	0. 026t (6. 56kg/ 枚)
ブラケット	白色塗装 C種	70 × 31 × 300	6 (個)	0. 009t (0. 93kg/ 個)

防護柵設置数量表

項 目	規 格 値		数量	備考
ビーム	白色塗装 C種	2. 3 × 350 × 4330	2 (枚)	
袖ビーム	白色塗装 C種	2. 3 × 356 × 660	4 (枚)	
ブラケット	白色塗装 C種	70 × 31 × 300	6 (個)	
ボルトナット	白色塗装 C種	M20 × 145 (ブラケット用)	6 (本)	
ボルトナット	白色塗装 C種	M16 × 35 (ビーム用)	28 (本)	
橋名板	ブロンズ製	300 × 120 × 20mm	4 (枚)	

【礼受高台通り 1 号橋】

工事名	潮橋外1橋長寿命化補修工事		
図面名	ガードレールビーム取替図		
作成年月日	令和4年10月28日 ~ 令和5年3月10日		
縮 尺	図示	図面番号	2
会社名	株式会社 シビテック		
事業者名	留萌市 都市環境部 都市整備課		

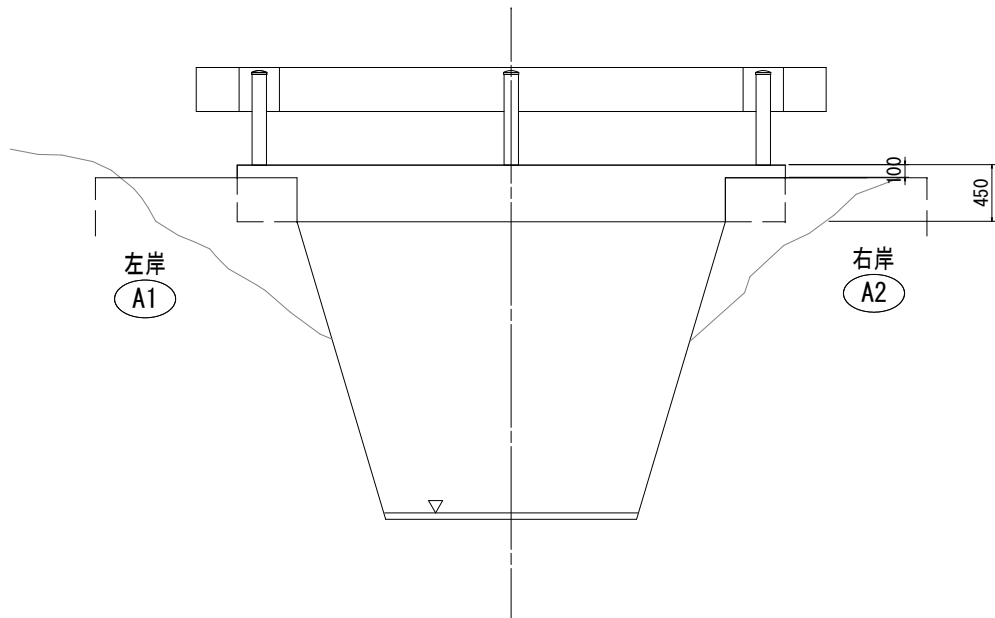
注意事項

- 図中寸法は既往資料及び作工調査を基に作成した復元寸法である。  
施工にあたっては、現地計測のうえ再確認を行うこと。  
寸法が異なる場合は、監督員と協議のうえ必要に応じ寸法を変更すること。

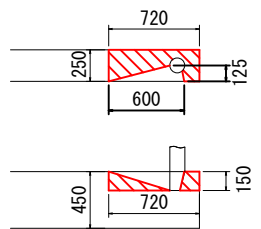
# 地覆補修図 S=1:30

〔礼受高台通り 礼受高台通り 1号橋〕

上流側面図 S=1:30

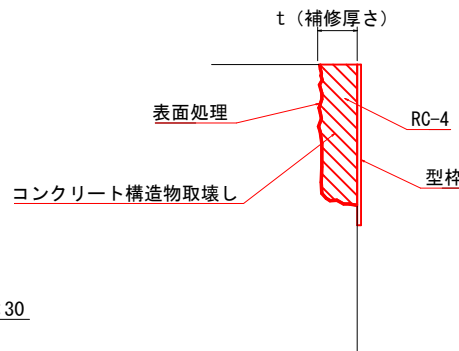


構造物取壊し詳細図 S=1:30



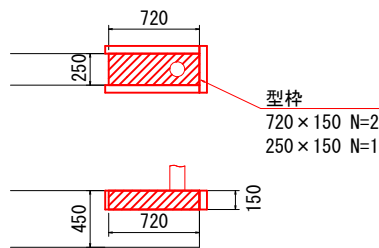
断面修復工

充填工法



断面修復工詳細図 S=1:30

充填工法



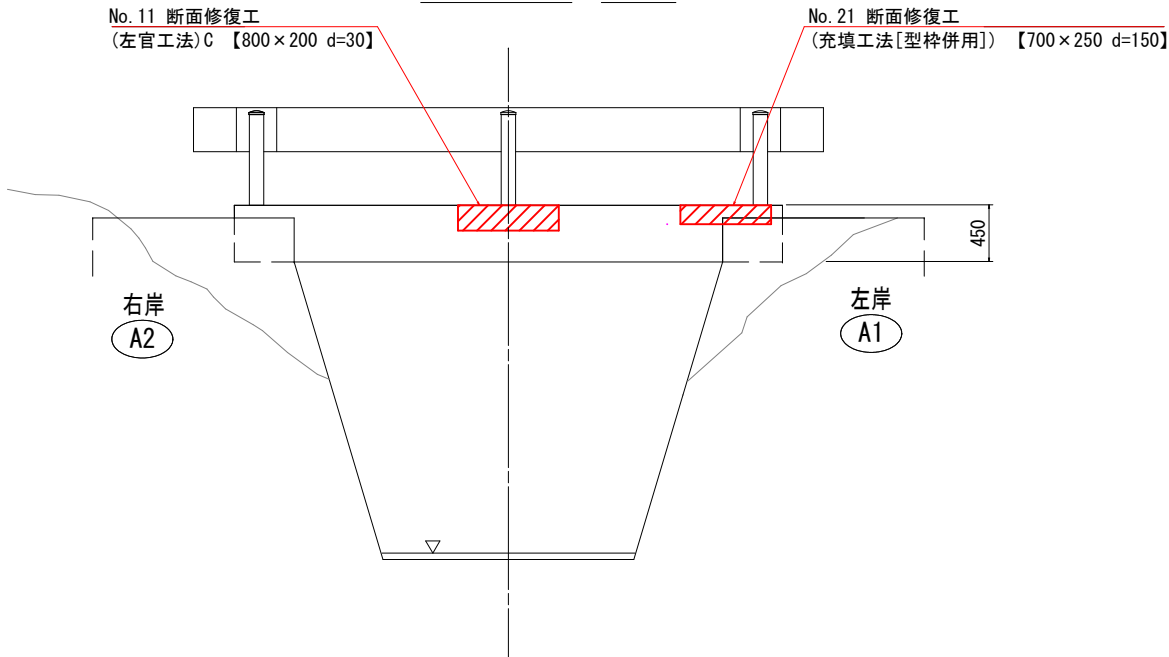
コンクリート構造物取壊し

No.	延長 L (m)	幅 B (m)	深さ t (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	体積 (m <sup>3</sup> )	備考
21	0.72	0.25	0.15		0.0251	欠損部を除く
計					0.0251	

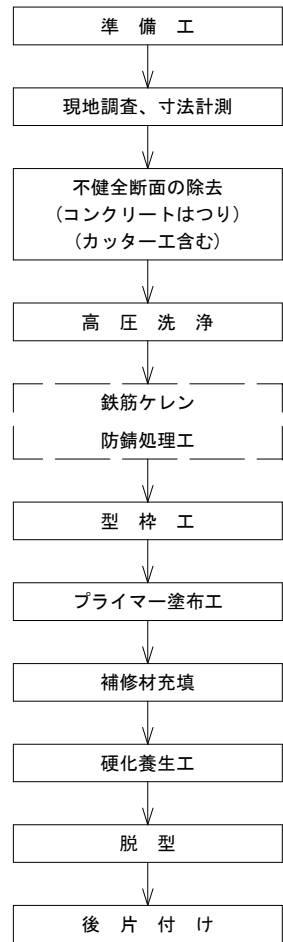
断面修復工(充填工法[型枠併用])

No.	延長 L (m)	幅 B (m)	深さ t (m)	型枠面積 (m <sup>2</sup> )	体積 (m <sup>3</sup> )	備考
21	0.72	0.25	0.15	0.2535	0.0270	RC-4(低添加型膨張剤入り)
計				0.2535	0.0270	

下流側面図 S=1:30



断面修復工  
(左官工法)



必要に応じて行う

断面修復工(左官工法)C

No.	延長 L (m)	幅 B (m)	深さ t (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	体積 (m <sup>3</sup> )	備考
11	0.80	0.20	0.03	0.1600	0.0048	
計				0.1600	0.0048	

## 注意事項

- 図中寸法は既往資料及び作工調査を基に作成した復元寸法である。  
施工にあたっては、現地計測のうえ再確認を行うこと。  
寸法が異なる場合は、監督員と協議のうえ必要に応じ寸法を変更すること。
- 既設コンクリートの脆弱部は、深さに関わらず撤去のこと。  
はつり深さが著しく大きくなる場合は、事前に監督員と協議すること。
- 断面修復の補修材は、標準養生にて母材強度以上とする。
- 漏水及び遊離石灰箇所は清掃を行い損傷を確認すること。  
損傷が発見された場合、監督員と協議を行い、必要に応じて補修工法の選定を行うこと。

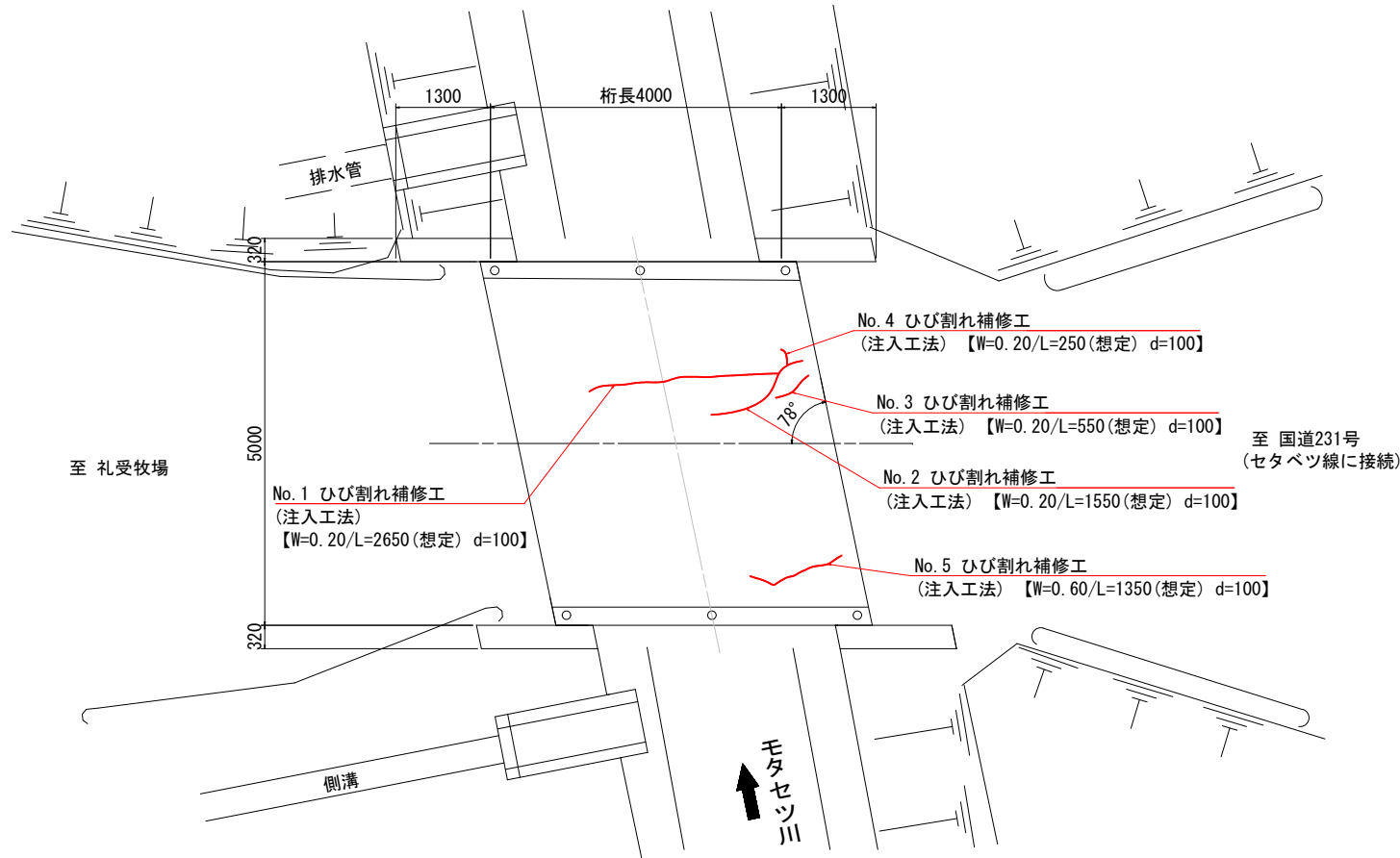
【礼受高台通り 1号橋】

工事名	潮橋外1橋長寿命化補修工事		
図面名	地覆補修図		
作成年月日	令和4年10月28日 ~ 令和5年3月10日		
縮尺	図示	図面番号	3
会社名	株式会社 シビテック		
事業者名	留萌市 都市環境部 都市整備課		

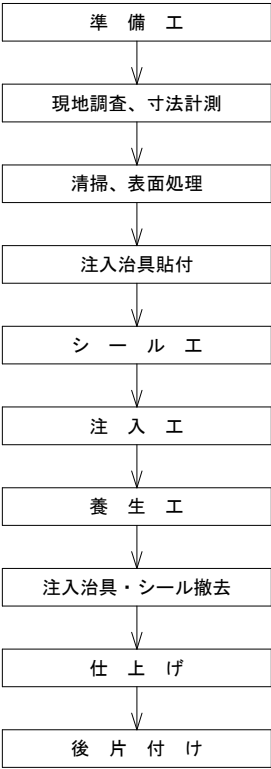
橋面補修図 S=1:50

〔礼受高台通り 礼受高台通り 1号橋〕

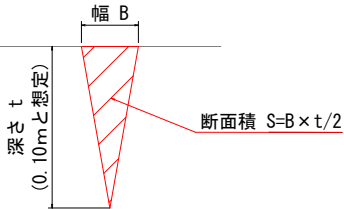
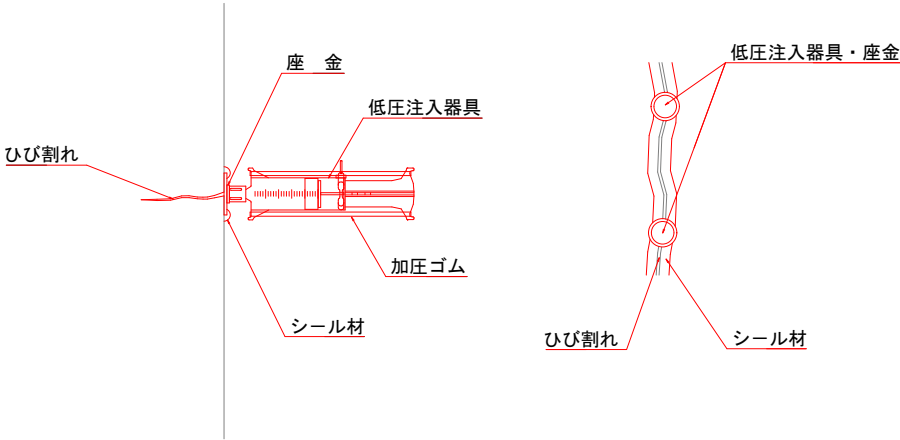
平面図 S=1:50



ひび割れ補修工 (注入工法)



ひび割れ補修工 注入工法



ひび割れ補修工 (注入工法)

No.	ひび割れ幅 B (mm)	延長 L (m)	断面積 S (m2)	備考
1	0.20	2.65	0.00001	想定
2	0.20	1.55	0.00001	想定
3	0.20	0.55	0.00001	想定
4	0.20	0.25	0.00001	想定
5	0.60	1.35	0.00003	想定
計		6.35		

補修工法の凡例

記号	
	ひび割れ補修工 (注入工法)

注意事項

- 図中寸法は既往資料及び作工調査を基に作成した復元寸法である。  
施工にあたっては、現地計測のうえ再確認を行うこと。  
寸法が異なる場合は、監督員と協議のうえ必要に応じ寸法を変更すること。
- 既設コンクリートの脆弱部は、深さに関わらず撤去のこと。  
はつり深さが著しく大きくなる場合は、事前に監督員と協議すること。
- 断面修復の補修材は、標準養生にて母材強度以上とする。
- 漏水及び遊離石灰箇所は清掃を行い損傷を確認すること。  
損傷が発見された場合、監督員と協議を行い、必要に応じて補修工法の選定を行うこと。

〔礼受高台通り 1号橋〕

工事名	潮橋外 1 橋長寿命化補修工事		
図面名	橋面補修図		
作成年月日			
縮 尺	図示	図面番号	4
会社名	株式会社 シビテック		
事業者名	留萌市 都市環境部 都市整備課		